

## JENESYS2015 招へいプログラム (対象国：インドネシア, テーマ：(スポーツ) バドミントン交流, 高校生・大学生) の記録

### 1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、インドネシアよりスポーツに関心を有する高校生・大学生 23 名が来日し、日本の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、3月15日から3月22日までの7泊8日の日程でプログラムを実施しました。

### 2. 参加国・人数

インドネシア 23 名

### 3. 訪問地

東京都、宮城県

### 4. 日程

- 3月15日(火) 成田国際空港より入国、来日時オリエンテーション
- 3月16日(水) 【テーマ関連講義】  
【スポーツ関連施設見学】味の素ナショナルトレーニングセンター
- 3月17日(木) 宮城県へ移動  
【学校交流/バドミントン交流】聖ウルスラ学院英智高等学校
- 3月18日(金) 【地域概要講義】仙台市国際プロモーション課、スポーツ振興課  
【文化体験】こけし絵付け体験  
【歴史的建造物視察】松島湾散策  
【ホームステイ対面式】
- 3月19日(土) 【ホームステイ】
- 3月20日(日) 【ホームステイ歓送会】  
【ワークショップ(報告会準備)】
- 3月21日(月) 地方プログラム終了後、東京へ移動  
【報告会】
- 3月22日(火) 成田国際空港より出国

5. JENESYS2015 招へいプログラム記録写真  
 インドネシア スポーツ (バドミントン交流) 訪日団の記録



3/16 テーマ関連講義 (東京都)



3/17 学校交流: 聖ウルスラ学院英智高校 (仙台市)



3/18 地域概要紹介: 仙台市 (仙台市)



3/19 ホームステイ (加美町)



3/19 ホームステイ (加美町)



3/21 報告会 (東京都)

## 6. 参加者の感想

### ◆ インドネシア学生

一番印象的だったのは、日本人の規律正しさがインドネシア人とは全く違うということです。例えば、日本人は交通ルールをきちんと守っています。また他に印象的だったのは、日本の発達した技術です。新幹線は遠距離でも短時間で移動できる交通手段なので便利だと思いました。日本には優れた人材がたくさんいます。味の素ナショナルトレーニングセンターで見た日本人のバドミントン選手や聖ウルスラ学院英智高校の生徒たちのバドミントンの技術の高さは、私たちにとって大きなモチベーションとなりました。そして、日本人は、人種、宗教、国の違いを超えて、大変親切で、礼儀正しく接してくれました。

### ◆ インドネシア学生

一番印象的だったのは、直接日本人の文化、技術、性格や礼儀を見て、また感じる事ができたことです。帰国して私がインドネシアの社会に伝えたいことは、国内の大きな問題である交通渋滞についてです。これまで解決できなかったこの問題をどのように解決していけばよいのかということをお話していきたいと思います。また、日本人のマナーは大変礼儀正しく、どこも清潔できちんと整理されていました。日本の技術は大変に素晴らしかったです。私はインドネシア政府、特に運輸省に、交通渋滞緩和への解決策の情報を伝えていきたいと思います。その一つとして秩序だった交通整備、車や安物のバイクや輸入品の削減及び生産の軽減、そして駐車場の整備です。

### ◆ インドネシア学生

一番印象的なのは、ホームステイです。それは直接日本人と接し、文化交流ができたからです。味の素ナショナルトレーニングセンターでは、バドミントン選手の練習を見学し、仙台の聖ウルスラ学院英智高校では、生徒と一緒に練習をしました。この交流を通して多くを学ぶことができました。また、加美町でのホームステイは本当に楽しかったです。ご家族の方に、雪遊びに連れていってもらいました。そして私たちはご家族の方々にインドネシア料理（焼き飯 ナシ・ゴレン）を作り、おいしいと言ってもらえました。彼らは、寿司、さしみ、牛タンなどたくさんおいしいものを食べさせてくれ、その他に買い物、人形絵付けなども体験しました。一番寂しかったのは、ホームステイのご家族と別れるときです。贈り物を交換する時も、もう一生会えないかと思ひ悲しかったです。もっと沢山話したいことがあり、別れるのが辛かったです。日本の方々は大変親切で、秩序ある交通なども勉強になりました。また是非再来日したいと思っています。将来、日本に留学したいと希望しています。

## 7. 参加者の報告会での報告内容（帰国後の発信計画） / プログラム中の発信内容

|   |  |
|---|--|
| <p>◎Project Title プロジェクトタイトル<br/>「Rencana Sosialisasi Pengetahuan dan Pengalaman di Jepang」</p> <p><b>WHY : (Reasons to do it) 考えた理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Karena merupakan hal yang sangat penting</li> <li>• たいへん重要な事項であると思われるので。</li> </ul> <p><b>WHEN : (When will it be done?) いつやるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Ketika kami sudah kembali ke tempat kami masing-masing</li> <li>• 帰国後に回員それぞれの地元で実施する。</li> </ul> <p><b>WHO : (Who will do it?) 誰がやるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Kami semua yang mengikuti program JENESYS</li> <li>• 今回のJENESYSプログラム参加者全員。</li> </ul> <p><b>WHO : (To whom?) 誰に対してやるか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Kepada orang-orang di negara kami</li> <li>• 自国の人々に対して行う。</li> </ul> <p><b>WHAT : (Details of the action) 何をやるか</b></p> <p><b>HOW : (How to do) どうやってやるのか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Menyampakannya lewat media social ・SNSを駆使する。</li> <li>• Seminar-seminar ・セミナーを開催する。</li> <li>• Berita-berita ・広報誌の紙面に掲載する。</li> </ul> |  |
| <p>アクションプラン</p>   | <p>Instagram 発信</p>  |